

どうぶつこうえんニュース

Chiba Zoological Park News

No. 16



どうぶつと私…(11)

Animals and I

猫額庭の自然

Flora and Fauna in my small garden

大場 達之

千葉県立中央博物館副館長



東京の西のはずれに住まいして50年を過ぎている。物心つくころからのことで、盆暮に帰る田舎もなく、都会の根無し草の生活であるが、昭和30年代の前半ころまでは、近くに田や畑があり、ギンヤンマ捕りに熱中したこともあり、正月には凧揚げもできた。家の庭でイタチを目撃したこともあるし、大水のときにシマヘビが現れたこともある。東京とはいえ、いっばしの田園的環境があったのである。

このあたりは昭和10年代ころからひらけはじめた新興の住宅地で、20年ほど前までは“緑の多い住宅地”というカテゴリーに相当するところであった。しかし相続税が払い切れず、土地を売る人がすくなくならずあり、その土地がミニ開発という代物で細切れになり、瞬く間に緑が消えていってしまった。

そのような傾向に抵抗を感じたので、我が家では自然主義を標榜し、木、草の繁るままにまかせており、従って近所からの評判は芳しくない。しかしキジバト、ヒヨドリ、ツグミ、ムクドリなどにはごく好評で、山ほど集まってくる。鳥の糞からはシュロ、ネズミモチ、エノキ、ミズキ、ユズリハなど、さまざまな植物が芽生え、それがかなりの大きさに繁っている。小さな書庫を建て、外壁にツタを這わせたとこ、ヤモリが増え、毎晩3個の小窓のガラスに張り付いて、さかんにガの類を追っている。また庭にはヒキガエルが多いが、今年は長さ80cmにもなるオオミスジコウガイビルが2匹もあらわれて一家を驚ろかせた黒い普通のクロイロコウガイビルは昔から多かったが、これは初めてである。これが一体どのような経路で我が家の庭に現れたのか、不思議である。

都会の僅かな緑が、どの程度のフロラ、ファウナを支えられるものか、さらに見守ってゆきたいと考えているが、動物も植物も次第に帰化種が多くなり、在来種が減少する傾向が心配である。いまこの原稿を書いている間もアオマツムシがやかましう鳴いている。

目次

表紙 オセロット	1
どうぶつと私⑪ 「猫額庭の自然」	2
グラビア モウコノウマ	3
特集・特別展のできるまで	4
サマースクール	5
特報	
飼育レポート カリフォルニアアシカ	6
動物公園の動物⑪	7
動物公園の植物①	
動物公園日誌から	8
飼育よもやま話	10
健康管理センターから	11

表紙の動物説明

オセロット

北アメリカ南部から中央・南アメリカ(アリゾナ・テキサスからアルゼンチン北部)にかけての広い範囲の森林や林に生息します。中型で斑紋の美しいネコで、単独行動を好み、夜行性です。小型の哺乳類や鳥類を主な餌とし、木のぼりが得意で、樹上で餌をとることもあります。美しい毛皮をもつために盛んに捕獲され、一時は年間数万頭を越える毛皮が取り引きされましたが、現在は、ワシントン条約などで厳重に規制保護されています。

撮影・宮川千尋

動物飼育数

哺乳類	76種	495点
鳥類	94種	408点
爬虫類	5種	23点
両生類	1種	2点
魚類	1種	2点
総計	177種	930点

(平成4年8月31日現在)

モウコノウマ

Przewalski's Horse

奇蹄目 ウマ科



撮影 宮川 千尋

現存する唯一の野生の馬ですが、今日では残念ながら野生で確認されていませんので、絶滅したのかも知れません。しかし、世界では動物園などに1990年の調査では961頭が129の施設で飼育されており、すでにその一部は原産地である中央アジアで野生に戻す試みがされています。本邦では、本園と多摩動物公園、浜松市動物園に11頭が飼育されています。
(宗近 功 Isao Munechika)

特別展のできるまで

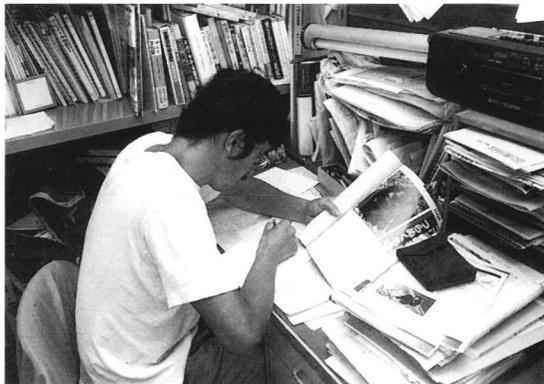
The process of making a "Special Exhibition"

千葉市動物公園では動物科学館1階ホールと2階特別展示室において開園（1985年）以来、特別展を開催してきており、今までに22回の特別展を開きました。

特別展（通年）	動物愛護週間特別展	新春特別展
1985年 動物公園のできるまで	滅びゆく野生動物	トラ
1986年 世界の動物園展	ペーパークラフトグラフィック	ウサギ
1987年 二次開園の動物たち	滅びゆく日本の野生動物	恐竜
1988年 千葉の野生動物	アラスカの野生動物	ヘビ
1989年 家畜と人間	アフリカの動物たち	ウマ
1990年 家畜と人間パートII	——	——
1991年 動物の大疑問	ツシマヤマネコとその仲間たち	ニホンザル
1992年 類人猿の世界	日本のワシ・タカ	未定
1987年には「ヒツジのおくりもの」を行なっています。		

そこで特別展が発想され企画、準備、完成するまでの過程をお話ししたいと思います。

特別展の開催日の3～6ヶ月前、場合によっては1年以上前にどのようなテーマの特別展にしようかと頭の中でいろいろ考え、いくつか候補を決め、動物公園としてふさわしいか、特別展として展示物などがそろるか、などいろいろと検討します。その間いろいろな資料を集め、調べるために本（写真集、図鑑など）や



原稿を書きます。

雑誌などを利用します。また、新聞や雑誌（動物や自然についての雑誌）に紹介されている写真展やその他の展示会を調べたり、場合によっては直接写真展などを見にいたりします。このような情報収集の中でテーマとおおまかな内容が決まります。

テーマが決まると、テーマについてより正確な情報を得るために本や雑誌などを詳しく調べます。このテーマに関する動物は何種類いるのか、その中でも特に重要なのはどの種類なのか、それぞれの種類の特徴などもいっしょに調べておきます。

展示に必要な動物の種類が決まると、写真やその他の方法（バードカービング、標本など）で展示するかを調査し、決めます。写真などを持っている、いろいろな人に電話などで問い合わせをし、同時に写真などの借用の相談もします。写真はこの動物のこのようなカットの写真が必要だと要請し、ひとりないし数人の

人（団体）から同じようなカットの写真を送ってもらい、その中から選びます。どうしても写真が集められない場合がありますと、イラストにしたりします。



写真パネルの場所は実際につけてみて決めます。

それらの展示物の準備と平行して、解説パネルや写真キャプション原稿を書き始めます。解説やキャプションは長いと来園者が読むのがたいへんなので、短くわかりやすく書く必要があります。小学5～6年生くらいにわかるように書くようにしています。また、たくさんの種類の動物の説明を一定の字数（普通100～160字くらい）で書くのはとてもたいへんです。その字数の中に来園者が興味をひき、心に残る内容をもり込み、なおかつ代表的な特徴なども入れます。

写真などの展示用材料がそろい原稿が完成すると、委託業者と相談し、写真の大きさ、解説パネルのデザイン、レイアウトなどをきめます。そのあと正確な特別展の実施計画が出来上がります。あとは原稿の写植



完成したところです。

の校正をしたあと、開催日の前日の休園日などに特別展の設営を行います。そして、出来上がりを確認して完成です。（宝川 範久 Norihisa Takaragawa）

第8回サマースクール The Summer School

第8回サマースクールが7月28日～30日に開催されました。園内の7つのゾーンとも、獣舎の掃除、動物の世話以外にも、工夫をこらしたプログラムを用意し、例年にない3日間になりました。



高学年になると庖丁の使い方もうまくなります。



倉庫ではありません、超大型の冷蔵庫です。



最初はみんないやがる、フンの観察です。



動物の体のしくみの違いを、教材を使って調べます。



動物のタマゴを実際に手に取っての観察です。

特 報

ほし この地球はでっかいでっかい動物園

動物愛護に関する標語で当園より金賞入賞者！

動物愛護精神の普及啓蒙をはかるための、動物愛護に関する標語募集（日本動物園水族館協会主催・総理府後援）が、7月中実施されました。その結果、市内花見川区に在住の尾根章郎さんの作品が、金賞に入賞されました。おめでとうございます。



表彰式に出席された尾根夫人

カリフォルニアアシカ

Californian Sea Lion

ここ、千葉市動物公園ではカリフォルニアアシカを1998年の二次開園より、飼育展示をしています。当園でのカリフォルニアアシカの家族構成は、雄1(ドン)、雌3(キキ、チコ、ミュー)の合計4頭で、このうちドンとキキの間に1992年5月20日、出産がみられました。

カリフォルニアアシカは、アメリカ合衆国のカリフォルニア沿岸、特にサンフランシスコからサンディエゴにいたる沿岸の岩礁地帯や付近の島々に生息しています。

分類学上、アシカ科、アザラシ科とセイウチ科の3科は^{ヒレアシ}鱗脚目に属し、アシカ科は更にアシカ属、オタリア属、トド属に分類されます。アシカ属は、生息地域によって3亜種に分けられます。それぞれ、カリフォルニアアシカ、ガラバゴスアシカ、ニホンアシカと呼ばれ、このうち日本海の竹島周辺に生息していたニホンアシカは乱獲などにより、絶滅してしまったようです。

今回、出産した雌の個体は昨年初めての出産を経験したのですが、残念ながら死産に終わってしまいました。

ですから今年こそはと、期待を寄せていました。アシカの妊娠期間は約1年といわれています。交尾行動が確認できなかつたため、出産予定日の推定は不可能でしたが、下腹部の膨大がみられ、食欲のほうは全く餌を食べない日が何日か続いた後、少し回復するといった状態が不規則に繰り返され(また陰部が開いてくるなどといった)出産前の兆候が見られるようになりました。いよいよかと思っていたところ、5月20日の朝、カン高いしわがれたような初めて聞く鳴き声のアシカ舎に響きわたっていました。

出産が無事終わってからの問題がありました。獣舎の構造です。それまでのアシカプールは色々な事情があ



15日令 母親のキキと

り、水位を下げていなければならなかったのです。それでも成獣は、一度水中に潜水してから陸場へジャンプをして上がることができるのですが、生まれたばかりの、泳ぎ方もほとんど知らない赤ん坊にそんな芸当ができるはずありません。このため水位を上げることになったのですが、すぐには水なたまらず、そうしている間にも雌親のキキはプールに入ったり出たりして赤ん坊を水中に呼び込もうとしています。親の甘い鳴き声に誘われてか、赤ん坊はヨロヨロと斜面を歩いていき、水の中に入ってしまいました。水面はまだ低い位置にあります。



90日令 1人で昼寝

案の定、赤ん坊はまだ泳ぎをほとんど知りません。頭を水面から上げ、必死で前足をバタつかせています。ようやく体を休ませられるような岩場をみつけ休憩していると、すかさず親がやって来て水の中へと引きずり込んでいきます。このヒヤヒヤするスパルタ教育ぶりを何度か繰り返しているうちに水位が上がっていき親は赤ん坊を陸場へ上げてやることができました。赤ん坊のほうは疲れたのか、眠ってしまい、アシカの親子にとっても、私たち飼育係にとってもたいへんに長い一日が終わりました。

次の日には授乳行動が確認でき、10日を過ぎる頃には最初の日とは比べ物にならない程、泳ぎが上達していきました。今ではプールの隅から隅まで自由に泳ぎ回っています。

先に述べた通り、ここ数十年ニホンアシカの姿を見たという記録がなく、1991年環境庁から絶滅宣言が発表されました。カリフォルニアアシカも海洋汚染などにより数が減り、アメリカ政府が保護を行っています。このことから今後とも繁殖が成功していくよう努力を重ねていきたいと思います。

(樽川 修 Osamu Tarukawa)

動物公園の動物…⑪

Animals in the Chiba Zoological Park

～ハートマンヤマシマウマ～

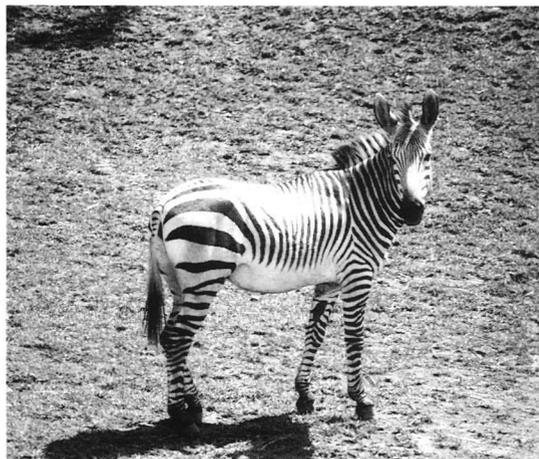
Hartmann's Mountain Zebra

姿を見れば、子供から大人まで「シマウマだ!」といわれるほど、人々によく知られている動物ですが、シマウマにもたくさんのなかまがいるのを皆さんご存じですか。

動物公園の草原ゾーンでは、グレビーシマウマと今回ご紹介するハートマンヤマシマウマの2種が飼育展示されています。

このヤマシマウマは、皆さんがテレビで見慣れている広い草原で生活している種とは異なり、名前からわかるように山地で生活しています。アンゴラから南西アフリカのごく限られた山岳地帯に生息し、数も少なく現在は絶滅のおそれのある種として保護されています。国内では、当園を含め3園でしか飼育されていません。

ヤマシマウマは、高く巾のやや狭くなったひづめを持っており、腰から尾の上面にかけて1本の線があり、そこを横切る数本の短い横縞があり、上から見ると魚の骨のように見えます。首の下には、皮が余っているような小さな肉垂があります。このような特徴は、他



のシマウマには見られません。

グレビーシマウマにくらべ、体はひとまわり小さく、縞の中はやや広く特に尻の部分は間隔も広がっています。また、縞のない場所も微妙に異なっています。

このように、何気なく見ていたシマウマも少し細かい所を見ていくと、新しい発見があると思います。

特に、2種（ハートマンヤマシマウマとグレビーシマウマ）を見くらべて、どこが同じで、どこがちがうか、ご家族やお友達など一緒に来た人達と話しあってみて、いつもとかわった動物園を楽しんでみてはいかがでしょうか。（伴野 修一 Shuichi Banno）

動物公園の植物…①

The plants in the Zoological park.

～動物公園の植生～

The vegetation of the Zoological park.

動物公園内の植物を個々に紹介をする前に、今回は動物公園の植生について記述することにします。

まず、動物公園の地理及び地形について、千葉市街地より北へ約4kmに位置する市街化調整区域内、標高20～30mの台地にあります。その中央部には13.6ha程の平坦地があり、動物展示ゾーンが整備され、外側に標高12m前後の低地が外輪状に延びた谷地に、駐車場と遊園地が整備されております。

園内の現況植生は2つに分けられ、南及び西向き斜面（動物科学館南側）の一带は、上総台地に多く見られる雑木林（コナラ・クヌギ林）を定めています。その下側の斜面林にはコナラ・クヌギの他、イヌシデやヤマザクラ・アカガシの林が覆っています。

これに対して、北向きの斜面林（ゾウ舎北側）は南向き斜面にくらべ急な崖地になっており、多くはスギの植林がなされ、その中にイヌシデ、コブシ、アカガシ等が点在し、林床には貴重な野草類も生育しています。

その他、園内東南部（鳥類・水系ゾーン東部）には、



中央広場

社寺林跡があり、園内には数少ないスタジヤシラカシの常緑広葉樹やケヤキの大木が残っています。その他、土地の境界を示したと思われるヤマザクラやスギの列植なども見られます。

これとは別に、園内中央部のメインモール周辺は、造成前は畑が主で、殆どが裸地であったため、これら現況植生を考慮した上で植栽した樹種（メインモールのケヤキ並木等）であり、緑ゆたかな公園を形成している本園において大きな役割もっています。

こうした現況植生は、当初計画から保存樹林として取入れられ、動物展示ゾーンの動物を外から守る緩衝緑地として、今日では貴重な緑となっています。

（本多 啓一 Keiichi Honda）

動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'91年2月1日～'91年7月31日

- 2月1日 大雪で園内の樹木、多数折れる
2月2日 ルリコンゴウインコの雛、巣箱から離れる



- 2月2日 「ゆかいな森の音楽会」開催
2月3日 閉園日のため、先日の大雪の被害の後片づけを行う
2月5日 ニホンザルの仔に個体識別のため入墨を行う
2月10日 アカコンゴウインコ、1羽孵化する
2月11日 アミメキリン繁殖(雄1頭)する
カムリバト、1羽孵化する
2月14日 フンボルトペンギン、産卵する
2月16日 イワトビペンギン、入院する
2月17日 モウコノウマ、雄と雌とを分ける
2月18日 イワトビペンギン、死亡する
2月20日 マカロニペンギン、退院する
2月21日 マーコール、元気がなく動きが悪い
2月22日 ヨーロッパバイソン、樹木保護柵を壊す
" 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催(夜行性動物)
2月23日 オランウータンの「キャンディー」親子と雄の「ラーマン」を同居させる
2月24日 グレビーシマウマ「シズカ」の乳房がかなり目立つようになる
2月25日 アクシスジカ繁殖(雌1頭)する
2月26日 25日生まれたアクシスジカ、死亡する
3月1日 ヘビクイワシ、1羽死亡する
" 「春のクイズラリー」開催
3月3日 グレビーシマウマ繁殖(雌1頭)する
エリマキキツネザル繁殖する
3月8日 キホウボウインコ、1羽保護受けする
3月10日 ホオカザリヅル、産卵する
3月12日 マーコール、智光山こども動物園へブリー

ディングローンで搬入する

- 3月13日 フタコブラクダ繁殖(雄1頭)する
3月15日 アメリカビーバーの歯切りを行う
3月17日 トナカイ雌の左角落ちる
3月19日 ショウガラゴ6頭、展示する
3月20日 ピグミーマーモセット繁殖する
3月21日 雪のため動物を早目に収容する
3月22日 3月13日に生まれたフタコブラクダの仔、死亡する
3月23日 ロバ、出産に備えて雄と雌を分ける
3月24日 ワタボウシバンシエ繁殖する
3月26日 フンボルトペンギン、1羽孵化する
3月27日 フタコブラクダの雌、雄に咬まれ大ケガをする
3月28日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催(ハシビロコウ)
4月1日 ミニブタ、雌1頭死亡する
4月4日 アクシスジカ繁殖する
4月5日 クロザルの雌、死亡する
4月7日 園内排水管の大規模な清掃作業がある
4月9日 セーブルアンテロープ繁殖(雌1頭)する
4月11日 アミメキリン雌(ヤエ)、右前肢腫脹、跛行する



- 4月12日 来園者500万人達成
4月14日 ドイツ・ケルン動物園のピーター氏、来園する
4月16日 アフリカ草原B放飼場、工事中のため動物放飼せず
4月18日 ウスユキバト、1羽孵化する
4月20日 オオサマペンギン、換羽終了する
4月21日 ヤケイ類にニューカッスル病のワクチンをうつ
4月23日 中国、天津動物園、呂園長来園する
" フンボルトペンギン、産卵する
4月25日 ピグミーマーモセット繁殖する
4月26日 セーブルアンテロープ、初めて全頭一緒に放飼する
" 「動物公園ワンポイントウォッチング」開

催（カンガルー）

- 4月29日 コシジロヤマドリ、雄1羽死亡する
- 4月30日 ルリコノハドリの雛、ヘビに食べられる
- 5月2日 ヤマドリ、4羽新着する
- 5月3日 ゴールデンウィークで好天のためお客が多い
- 5月6日 ムフロン、難産で仔が死亡する
- 5月7日 クロザルの雌、新着する



5月8日 フクロテナガザルの雌、新着する

- 5月9日 読売新聞社の安田氏、体験研修を行う
ハートマンヤマシマウマ、出産するが死産
- 5月10日 「愛鳥週間記念講演会」開催
- 5月14日 カルガモ、1羽保護受けする
- 5月15日 盛岡市動物園の辻本獣医師、来園する
- 5月16日 ピグミーマーモセット、1頭死亡する
- 5月17日 保護のカルガモ、大池に放鳥する
- 5月19日 モウコノウマに日本脳炎のワクチンをうつ
- 5月20日 カリフォルニアアシカ、当園で初めて繁殖する
- 5月23日 ホンドザル繁殖する
- 5月24日 バードホールにて、ルリコノハドリ孵化する
「羊の毛刈りと紡毛教室」開催
- 5月26日 カリフォルニアアシカ、出産するが死産
- 5月27日 ゾウ雄（スラタラ）、元気消失する
- 5月29日 オウギアイサ繁殖する
- 5月30日 ゾウ雄、砂混じりの糞をした後元気になる
- 5月31日 フクロテナガザルの雄、新着する
「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（オランウータン）
- 6月1日 アミメキリン1頭、アクシスジカ3頭、搬出する
チリーフラミンゴ、5羽新着する
- 6月3日 モウコノウマ、ムフロンに腰麻痺の予防注射を行う
- 6月5日 エリマキキツネザル繁殖する
- 6月6日 子ども放場のウマ、全頭削蹄する
- 6月7日 「動物を計る会」開催

- 6月9日 アオボウシインコ、埼玉子供自然公園に寄贈する
- 6月11日 アネハヅル、1羽死亡する



- 6月14日 ブリーディングローンで、八木山動物園からレッサーパンダ雄1頭、新着する
- 6月15日 チリーフラミンゴ5羽、展示する
- 6月17日 飼育センター1階で「動物の餌」の展示を始める
- 6月20日 ワタボウシパンシエ繁殖する
- 6月21日 ホシハジロ2羽、孵化する
- 6月28日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（マーモセット類）
- 6月29日 オオカンガルーの仔、初めて袋から顔をだす
- 7月1日 動物愛護標語募集（～31日）
- 7月3日 アメリカアカリス繁殖する
- 7月10日 ヤク繁殖する
- 7月11日 アカテタマリン、ムネアカタマリン、それぞれ2頭づつ繁殖する
- 7月12日 サル比較舎に暑さ対策として遮光ネットを張る
- 7月14日 ペンギン全羽、冷房室に移す
- 7月15日 レッサーパンダ舎の改修工事終了する
- 7月16日 レッサーパンダの雄、初めて放飼場にだす
- 7月17日 レッサーパンダ、雄雌を一緒にだすが特にトラブルなし
- 7月20日 アメリカビーバーの歯を切る
- 7月24日 ヨーロッパバイソン、保護柵を壊す
- 7月25日 暑さのためか、全般的に動物達の元気がない
- 7月26日 「動物公園ワンポイントウォッチング」開催（フンボルトペンギン）
- 7月28日 ツメバガン、9卵目を産卵する
「第8回サマースクール」開催（～30日）

飼育よもやま話

Animal Episode

マレーバクがやって来た

Malayan tapirs have come !

オスのマレーバクが、はるばる中国から当園にやって来ました。名前は日本での生活によくなじみ丈夫であってほしいと思い、日本国の異称であった「ヤマト」と名付けました。ヤマトは、気が小さく用心深く神経質で1年以上過ぎてても、相変わらずおどおどしています。「ヤマト通るよ」と声を掛けて、寝室の前を通ると私



の姿に気が付き、ドキリとしたり、体を急に動かし転んだりして、すごく驚いているのですが、私も予想しなかったことが急に起こるため、「おっとビックリした」と驚いてしまいます。このように、臆病な性格のヤマトですが、ハエ叩きで体を叩いてやりますと座ったり、ゴロンと横になります。皆さんは、なぜ、ハエ叩きで叩くのだろうと思ったでしょう。ハエの活動しやすい季節になりますと体中にハエが集まるのです。放飼場から寝室にハエを連れて帰って来るので、このハエ叩きが役に立っています。体を叩いている間、気持ちいいのでしょうか、騒がず静かに横になっています。ところが予防接種の時に、チクと刺さった注射が痛かったのでしょうか。この頃から、体を叩いて横になっても、すぐに立ってしまい、横にならないことが多くなりました。今でも注射の痛みを覚えているのでしょうか、ハエ叩きに噛み付いたり、口を開けて噛み付こうと私に向かって来たりもします。しかし、本当はすごく、おとなしいのです。そんなヤマトにも、独身生活に別れを告げる時がやって来たのです。1992年の春に名古屋から東山動物園生まれのお嬢さんが、お目見えしました。「ユキミ」と名付けられ、ヤマトとは、正反対で人によく馴れていて、落ち着いています。まだ幼く1992年7月14日で満1歳になりました。ヤマトとユキミが、相性のよい夫婦になることを願っております。
(千葉 茂 Shigeru Chiba)

つきあいはじめて5ヶ月

It's been five months since I got to know them.

クウィ、クウィとやさしい鳴き声がドアの向う側からする。朝一番の彼らからのあいさつである。ドアを開けると放飼場の出入口に三頭とも頭を向けて待っている。扉を開けるのを待っていましたとばかりに外に出て行く。まだ、水も入っていないプールに入り、人の顔を見て早く水を出してよとばかりである。彼らとは4月からのおつきあいであるが、本当に人なつこく、かわいいものである。

彼らの仲間は南アメリカの北部からアンデス山脈の東部をへて南はパラナ川付近まで分布する世界最大のネズミ、「カピバラ」である。ゲッ歯目(ネズミ、リス、ヤマアラシなど)カピバラ科に属し一属一種。前足四本の指と後足三本の指には小さいながらも水かきがあり、巧みに泳ぎ、潜ることができる。それでは、彼らの素顔はどんなものなのでしょうか。



形態：体長106~130cm、体高50~60cm、体重35~64kg、胴は比較的短く、頭の幅が広く、尾はこぶのような形で残っている。耳は丸くて短く、小さい眼が顔のやや後方についている。鼻孔は小さく、じょうぶで、先がつぶれたように幅広くなっている口先の上縁にひらいている。一生伸び続ける門歯は大きく、短い草でも食べることができる。

習性：朝夕活動し、半水性で、群れで行動する。草食で、草や水生植物を食べる。ときにはよくみのった穀類やメロンのような果物をたいらげたりする。

繁殖：妊娠期間は119日~126日、年に1回、2~8頭の子どもを産む、きわめて発育よい。

動物園での食事：朝…青草。夕…食パン、生サツマイモ、リンゴ、生ニンジン、コマツナ、キャベツ、ニボシ。
(横川 まさ代 Masayo Yokokawa)

健康管理センターから

From the Animal Health Center

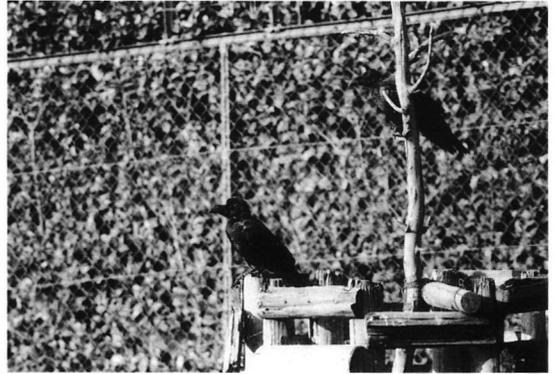
悪役だったたまには……ね

Villains occasionally do something nice.

カラスは動物園の嫌われものです。なぜ嫌われるのかと申しますと、動物の餌を盗んだり卵を盗んだり、時には小動物やその赤ちゃんをさらって食べちゃったり、とまあロクなことはしません。カラス大好き！という方はあまりいらっしゃらないとは思いますが…。

今回のお話は珍しくもそのカラスがいいことをした(らしい)というお話です。マレーバクのみ、ユキミが膿瘍という病気になりました。これはバイキンがからだの中に膿の巣を作り腫れ上がって、悪くするとそこからバイキンが体中にまわって死ぬことさえある病気です。切開してきれいに消毒するのが一番いい治療法なのですが、動物にはそれがわからないから、とてもいやがります。いやがる時の頼みの綱、麻酔もマレーバクの場合には難しく、治療ができて麻酔からさめずに死んでしまうことがあります。なおしかたがわかっているのになおしてやれないもどかしさにイライラする日が2、3日も続いたある日、「膿が出てきた！」という知らせでユキミの所へ行ってみると本当にポタポタと黄色い膿が下に垂れており、ちょうど切開したかった所に穴が開いています。それとばかりに消毒洗浄し、これを毎日繰り返して日に日によくなったのですが一つだけはっきりしないのは、誰が穴をあけたのかということです。

膿瘍は日数が経過すると体の抵抗力などで、次第に体の表面近くに移動し、やわらかくなって、ひとり



ボ、ボクかもしれない?!

に穴があいて膿が外に出ることがあるし、偶然ユキミが木の枝などにひっかけて穴があいたと考えられなくてもいいのですが、それにしては本当に理想的な、まさに私が切開したいと思った所に穴があいていました。

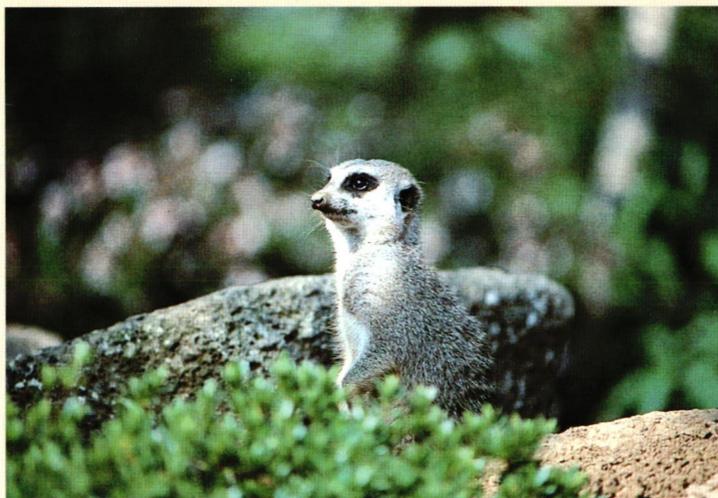
何人かの目撃談として、その日外で寝ていたユキミにカラスがいったかかっていたということを知りました。殺菌済みのメスで切開してくれたとは思えないので入念に消毒しておきましたが、その後、ユキミの経過は順調です。

本当にカラスが切開してくれたのかどうかは結局ナゾなので、その後カラスに会ったときに、「本当に君達が切開してくれたの？」と聞いてみましたが「カー」と鳴くばかり。ま、どっちにしろユキミがよくなってめでたしめでたし。

(市川 心一 Shinichi Ichikawa)

平成4年度後期行事予定表

行 事 名	期 日	内 容
自然と遊ぶ教室	10月25日	草木や木の実で遊びながら、自然と親しむ楽しい教室です。
秋のZOOクイズラリー	11月3日	園内の動物にちなんだクイズを行ないます。
動物公園写真コンクール作品展	11月1日～11月29日	入選作品の展示を行ないます。記念講演会及び表彰式(11月8日)
動物公園のクリスマス	12月6日	クリスマスにちなんで、ツリーのかざりつけやカードを作ります。
新春特別展示	1月5日～	千支にちなんだ動物をパネルで紹介しします。
新春特別行事	1月10日	新春にちなみ、もちつき大会を行ないます。
バードウォッチング	1月17日	園内の野鳥の観察を行ないます。
ゆかいな森の音楽会	2月7日	動物にちなんだ音楽を演奏します。
春のZOOクイズラリー	3月7日	園内の動物にちなんだクイズを行ないます。
動物公園ワンポイントウォッチング	毎月第4日曜日に実施	動物公園の最新の話と動物のワンポイントガイドを行ないます。



ミーアキャット